

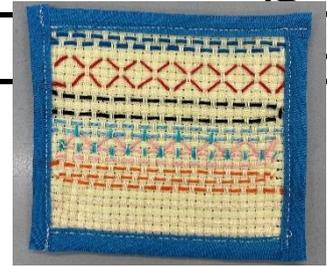
スウェーデン刺繍のコースター作り

教科・場面

家庭

授業・実践のねらい

- ・手縫い（なみ縫い）の基礎を学ぶ。
- ・集中して作業に取り組む。
- ・手先の巧緻性を高める。



対象の児童・生徒

高等部2年 C班4名

折り紙などの細かい作業が得意な生徒もいるが、首の不随意運動があったり、手に麻痺がある生徒もあり、作業能力には個人差がある。

言葉でのやり取りができ、意欲的に授業に参加している。

教材・教具

スウェーデン刺繍用の布 刺繍糸 毛糸のとじ針
 マスキングテープ、バイアステープ、チャコペン、
 針通し

工夫したところ

- ・毛糸のとじ針は先が尖っておらず安全に扱える。
- ・玉どめの代わりにマスキングテープを代用する。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

- ①好きな色の刺繍糸を選び、針に糸を通す。玉どめが難しい生徒は、代わりにマスキングテープをつける。
- ②スウェーデン刺繍のデザインを考え、布にチャコペンで印をつける。（直線、ジグザグ、模様など）
- ③印どおりに布の目をすくっていく。必要であれば、布を机にテープで固定する。
- ④①～③を繰り返す、布の最後まで縫っていく。
- ⑤余分な刺繍糸を切る。
- ⑥バイアステープで縁取り、アイロンで固定する。

※スピードには個人差があるが、本人のペースを大事にする。

早くできた生徒は、より細かい目の布や、より複雑なデザインに挑戦する。

※今年度の生徒は、全員刺繍用の布でできましたが、もう少し縫い目が大きいほうが良い生徒は、ビートルネットと毛糸、より太い毛糸の綴じ針や代用となる棒で行うとよい。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・はじめは、教師のサポート（縫い目に針を通す）がないと難しかった生徒も、慣れると一人でできるようになった。
- ・やりやすい姿勢を自分で模索し、椅子から降りて床に座って取り組む生徒もいた。
- ・とても集中して取り組んでいた。